

月刊 おかじょうき

<http://www.okajoki.com/>



2024

10

無人駅鑑賞「カンテラ」 むさし	4
会員雑詠集「無人駅」	7
■例月句会結果■	
おかしょうき川柳社 9月例句会	19
川柳吟行会「ぼ」	25
十和田たてがみ川柳会 8月句会報	29
Infomation	32～

カンテラ

むねこ

厳しい残暑が続いていますが、皆さんいかがお過ごしでしょうか。

私は今、「奈良一艘の珠玉の一句」をどの句にしよるかと思いつながら、また、一艘さん今どうしているだろうと思いつながらこの稿を書いています。

中学校同期に臍臓がんステージ4から還ってもう十数年という男がいて、彼と先月の同期会で一緒に飲んだことを思い出して、「一艘は必ず還ってくる」と念じています。

一艘！還って来い！

それでは、カンテラに明かりを点しましょう。

A群

一昨日の記憶がなくても飯喰える	坂本清乃
空寿くるぶれる心がまたのこる	村上てる
罪深くて共同墓地は入れない	安藤なみ
心棒が出ていったきり帰らない	辻井洋子
てのひらを見ている通院の途中	ひとり静
先輩も後輩もない終電車	鳴海賢治
満ち潮をじーっと待っているところ	斎藤泰子
納得をするまで棒になるつもり	三浦蒼鬼
駅裏の放置自転車にも驟雨	宮井いずみ
己が名を他人のように眺めている	戎 踊兵

戎踊兵さん、どうしたのですか？特別な何かがあったと思うのではなく、いつからか自分というものを客観的に見ることができるようになった、ということでしょうか。だとすれば凄いいんだけど。「あれ？この句うまいじゃん！何だ、オレの句じゃん！」なんてことじゃないよね（笑）

B群

あきらめを知ってしまった靴の底	芝岡かんえもん
バフンからケモノ臭いと踏まれた日	金瀬達雄
自慢するもの何もないのよ外は雨	まきこ
翅のないトンボになってみる景色	熊谷冬鼓
さよならが少しまじった「愛してる」	柳本恵子
耳鳴りの一瞬止んで今が逃げ時	四ツ屋いずみ

四ツ屋いずみさん、「耳鳴り」がしますか。「耳鳴り」は、周りで音が鳴っていないのに耳の中に様々な音が聞こえるんですね。ゴーとか、ザーとか、キーンと

か。一時的な「耳鳴り」は心配ないようですが、症状が長引き、日常生活に支障をきたすような場合は治療が必要だそうです。あるホームページによると、原因は加齢や騒音、筋肉のけいれん、病気などさまざまで、ストレスや疲労、睡眠不足をきっかけに発症することもあるようです。あれ？この句はそんなこと関係なさそうですね。この辺で逃げよっと。

C群

三日月を使って人を切っていく	夏草ぶぶき
目の前にその星が来て平手打ち	守田啓子
ふわりとカモミールここから象時間	きさらぎ彼句音
裸の人に引き出しが付いている	小野五郎

夏草ぶぶきさん、「三日月」って、広辞苑に出てくる「陰暦で月の第3夜過ぎ頃に出る月。細く、眉の形をしている」ってやつだね。で、「人を切っていく」だけど、「三日月」を見ながら「切れそうだな」「私に

向かってくる彼奴らをこれで切れないかな」と思っている、そういうことかな。そんなことを考えていたら、ふと伊達政宗の兜を思い出しました。ふぶきさん、こっそりやっていないよね（汗）

守田啓子さん、「星」を「平手打ち」にするのですか。「その星」って空の「星」なの？ 姓が「星」ってひとのことじゃないの？ 「平手打ち」は、開いた手のひらで叩くこと。啓子さんにいきなりビンタ張られた「星」さん、びっくりだろいな…。啓子さんって、蠅や虻も「平手打ち」にするのかな…。

きさらぎ彼句吾さん、私は「象時間」を知りませんでした。ネット検索したら中公新書の『ゾウの時間 ネズミの時間 サイズの生物学』（本川達雄著）がヒットし、その本のあらましに「動物のサイズが違うと機敏さが違い、寿命が違い、総じて時間の流れる速さが違ってくる。行動圏も生息密度も、サイズと一定の関係がある。ところが一生の間に心臓が打つ総数や体重あたりの総エネルギー使用量は、サイズによらず同じ

なのである。」とありました。句は、「カモミール」のいい香りを聞いた彼句吾さんが、これからはゆっくり生きて行こうと思った、というところでしょうか。関係ないことだけど、古代のひとつとして「カモミール」は大事な薬草だったようですね。

小野五郎さん、私はこの句を読んで非常に驚きました。「引き出し」は「机や筆筒などに取りつけて抜き差しできるように造った箱」のこと、だとばかり思っていたのです。広辞苑には「ひきだすこと」という語釈とこの語釈しかありません。ところが、デジタル大辞泉という辞書に「臨機応変に活用できる、隠れ持った多様な知識や豊かな経験のたとえ」という語釈もありました。この語釈だと五郎さんのこの句がすんなり読めます。ところが、数日後この句と再び向かい合ったとき、この「引き出し」はやっぱり筆筒なんかについているあの「引き出し」のことだと確信しました。そうでない面白くないもの。この句の「裸の人」って五郎さんかな…。

おかじょうき川柳社会員雑誌集

無人駅

★無人駅9月月間賞

クリーム餡蜜のクリームがイタイ

岩根 彰子

まきどり【まきどり・青森県青森市】

自慢するもの何もないのよ外は雨
いいねっていわれるほどのものじゃない
満月や白黒つけるのまだ早い
質問の答えはそつとしておいて
ワイン開ける理由はひとつありますが

号の先月お気に入り
ではなくて自動改札機を出る「ん」 守田啓子
またまた啓子ワールドにはまりました。

まみどり【まみどり・青森県黒石市】

面倒になったな物欲が減った
なにもかも捨てて薄れていく記憶
体力と気力のバランスの乱れ
とりあえず元気めいてる腹の虫
あれこれの順番さえもままならない

号の先月お気に入り
美味しいって言ってくれたから つづく 熊谷冬鼓
だってメニューを考えなくていいもんね。

宮井いずみ【みやいいずみ・大阪府大阪市】

マイオカイン少なめ歪な貝ボタン
駅裏の放置自転車にも驟雨
爪先できれいな円を描けますか
繋がれたままの犬の目チドメグサ
カルパッチョみたいな空耳のような

号の先月お気に入り
ふたりだと露骨に尖る夜の舌 米山明日歌
あれ？明日歌さん、なんでうちのこと知ってるんだろっ

村上あつこ【むらかみあつこ・青森県青森市】

断捨離が進まぬうちにボケが来た
欲張らずノンビリ老後過ごしましょ
スマホだけ持って行きます逝く時も
孫二人と犬一匹の夏休み
台風が行く手遮る夏休み

号の先月お気に入り
心の奥のそのまた奥の開かずの間 むさし
私にもありますよ開かずの間。みんな持っているのでは？

三浦蒼鬼【みうらそうき・青森県黒石市】

納得をするまで棒になるつもり
破顔一笑わたくしの旅立つ日
ただ森を走り続けてから水に
袋小路を抜けスクラッチくじになる
凸凹の道に味方が一人いる

号の先月お気に入り
金棒を用意したのに来ない鬼 宮井いずみ
用心深い鬼もいますよね

峯島 妙【みねしまたえ・大阪府大阪市】

あなたから壊した金継ぎの自由
波間からのぞくベディキュアの西瓜
悪女ならよかつた今さら鳳仙花
緩やかな放物線になるつもり
たいくつな唇恋を吸い寄せる

号の先月お気に入り
まばたきをしつつまたたき明ける空 安藤なみ
まばたきとまたたき明けるといふ浮き立つような朝焼け、
素敵です。

村上てる【むらかみてる・青森県青森市】

卒寿くるぶれる心がまだのこる
京みやげ父に雲龍決定版
ねぶた祭りのつぼの中でじゃわめえで
武者ねぶた出陣の花火に眼がギラリ
二日留守水を待つてる棚の鉢

号の先月お気に入り
百花繚乱 雨の香りも混じってる 吉見恵子
梅雨時の草花は雨の香りはたしかに混じっていますね。

守田啓子【もりたけいこ・青森県三沢市】

四畳半的生い立ちで綿素材
ため息にまみれた墮落したらくだ
もち吉をぶら下げて夕陽来る
目の前にその星が来て平手打ち
お互いの朝焼けを小出しする

号の先月お気に入り
ふりがなのブラウス二枚買ってくる 安藤なみ
そんなブラウスあるの??(汗)

柳本恵子【やなぎもとけいこ・奈良県奈良市】

伎芸天ふふと笑った気がしたの
伎芸天素足に涼し秋に風
あつけない別れを今も見つめてる
よどみない手順で死者になつてゆく
さよならが少しまじった「愛してる」

先月号のお気に入り

明日には…つて一応言っておく まみどり
昨日より今日 今日より明日って生きているんだけどね。

葉 閑女【ようかんによ・青森県青森市】

奇蹟つて起きないものね冷酒酌む
「我慢せず使つて」家計大火傷
おじいさんながらスマホは危ないよ
増えるのはシミシワだけか秋の風
夕暮れが好きな定家と鯛雲

先月号のお気に入り

吉田吹喜【よしだふぶき・青森県弘前市】

自己啓発 蛍光色の靴下で
ようやつと秋の入り口 チョコバナナ
濃密な緑色とはサヨウナラ
ウッドデッキ 突然ふわつと笑う雲
それぞれの形でもっているココロ

先月号のお気に入り

全力で「バカ」って言うから愛おしい 戎踊兵
全力でバカって言われている踊兵さんでどんな方なのか
と思つて笑っちゃいました。

吉見恵子【よしみけいこ・青森県青森市】

忠実な電話ボックス立っている
一日は短し 残暑見舞い書く
褪せてゆく椿スミレよたんぽぽよ
手花火の一人二人といなくなる
ヤドカリの宿で潮騒聴いている

先月号のお気に入り

四ツ屋いずみ【よつやいずみ・北海道札幌市】

発音は上手くなったよボンソワール
欠けててもいいんだよつて十六夜が
耳鳴りの一瞬止んで今が逃げ時
トドのつまり頼れる音はこの鼓動
はちがつの対岸の鷺 父らしい

先月号のお気に入り

過去形で褒められるから干からびる まみどり
わかります！だつて「今は今」ですよね

安藤なみ【あんどなみ・愛知県瀬戸市】

罪深くて共同墓地は入れない
川の水掬うメダカが待っている
返品は真空地帯しかも春
泣き黒子なくても何故か少女
満月のブルーライトが目にしみる

先月号のお気に入り

どん兵衛がホンモノ讃岐うどんはマガイモノ 奈良一艘
そう言えば、マガイモノがあつた気がします

米山明日歌【よねやまあすか・静岡県長泉町】

立ち読みはやめてくださいアゲハチョウ
独りの時間に啼くザラザラの風
幸せは夜中に開けた冷蔵庫
テトラポッドが父だつたころのわたしは
夏がさせ夏が壊した砂時計

先月号のお気に入り

一斉に啼くな夜半の消しゴム溼ぞ 岩根彰子
「啼く」にやられました。私の溼も啼いてると思います。

一帆【いちほ・秋田県秋田市】

白芙蓉あうんの呼吸忘れてる
深呼吸玄関マットは同じ位置
愛してる愛してる今日も地雷踏む
号令にたつた一人の回れ右
不確かに揺れる夜の蜃気楼

先月号のお気に入り

岩根彰子【いわねあきこ・京都府京都市】

台所の焦げた向日葵は刺客
箸休めでしようね此の度の離婚
鉄棒が誘う待宵月の肩
大至急午後をゴーヤチャンプルに
雨樋の口まで空蟬と死語

先月号の
お気に入り

戎 踊兵【えびすようへい・青森県外ヶ浜町】

うたた寝をしているアスファルトのヒビ割れ
ばやらばやらと西瓜の匂う甲虫
己が名を他人のように眺めている
瞬きを尚ゆつたりと合歓の花
紫陽花の色を失くして残すもの

先月号の
お気に入り

金庫をあける溢れでできた果し状 芝岡かんえもん
果たし状無視して生きる銀の蠅

きさらぎ彼句吾【きさらぎあくあ・青森県弘前市】

どうしても漣になつちやう昨日
ふわりとカモミールここから象時間
着古したワタシに未だなじめない
そっけない延長コードの横顔
追い詰めるネズミ花火を喉けて

先月号の
お気に入り

背泳ぎで来し方とやらを反芻 四ツ屋いずみ
現実の冷ややかさを背で反芻しながら、 未来と云う空の
青さへの憧憬を忘れていなさそう

熊谷冬鼓【くまがいとうこ・青森県青森市】

不自由の自由 パソコン家出中
翅のないトンボになってみる景色
あたふたのふたが戻ってからのこと
こんな日もあつてじっくりカシスジャム
なるようになるもんだなと水ごくり

先月号の
お気に入り

どん兵衛がホンモノ讃岐うどんはマガイモノ 奈良一艘
究極のどん兵衛愛ですね。

小野五郎【おのごろう・青森県青森市】

月光を浴びると脱ぎたくなつてくる
目の下のたるみから鳩をだしますよ
蚊柱が立つてる還俗したらしい
裸の人に引き出しが付いている
左利きの増毛サプリアリますか

先月号の
お気に入り

金瀬達雄【かなせたつお・富山県高岡市】

砂漠から逃れて里の砂を囓む
バフンからケモノ臭いと踏まれた日
黒松と黒い念波で響き合う
中心でmeを叫んで去るソ・ラ・ト
前線に隣人愛のルオー展

先月号の
お気に入り

外へ出る あなたが世界なのだから 藤田めぐみ
会心の一句！

古川平子【こがわひらこ・青森県蓬田村】

元気かと龍がひよつこり会いに来た
年老いた龍がしばし眠る町
目の中の三日月を龍が見せにくる
カラフルな龍は人にも擬態して
満月も龍の尻尾が研いてた

先月号の
お気に入り

斎藤泰子【さいとうたいこ・秋田県大館市】

私のせいなじられたのも暑いのも
おつきさま 誰をも泣かせませんよに
家じゅうの時計がみんなズレている
ふーんつて答えて遺書を書き直す
満ち潮をじーつと待っているところ

先月号の
お気に入り

攻撃は最大の防御バラのブーケ ひらく
バラのブーケで攻撃したの？どんな場面か気になって眠
れません！

坂本清乃【さかもときよの・青森県蓬田村】

線香花火尽きぬ話しは後にする
バーベキュートングについていく煙
一昨日の記憶がなくても飯喰える
とりあえず泡立ててみる卵二個
送り火の後の静けさ月明かり

先月号のお気に入り

嵯峨山登【さがやまと・佐賀県大和町】

人類の始祖女なり創世記
磨き忘れた鏡のやうな湊
入院の母は卵になる 眠れ
母雲のおなか突き破りて鰯
青龍を御するが如き川上り

先月号のお気に入り
どん兵衛がホンモノ讃岐うどんはマガイモノ
一艘痛快だと思えます。
奈良一艘

笹田隆志【ささだたかし・青森県青森市】

仏壇から香典返し消えていく
テロリストを羽交い締めするオジロワシ
死ぬときはあつという間の爪楊枝
子午線の無間地獄は空いたまま
愛されたくて接近禁止令がでる

先月号のお気に入り
こんなにやくになりますどこまで行けるか
どこにも行かないトコロテンもあります
岩根彰子

芝岡かんえもん【しばおかかんえもん・神奈川県横浜市】

言った通りでしょ 白骨に云われた
荒海にもがいて浮いた明朝体
赤潮がとどめを刺しにやつてくる
濁ったままの再会と言う水たまり
あきらめを知ってしまった靴の底

先月号のお気に入り

城後朱美【じょうごあけみ・福岡県八女市】

心配をしすぎて孫に嫌われる
嫌われていと孫を引っ叩く
力付くで羨しても無理だった
天使のような寝顔に怒り消えていく
九歳の孫は一人の人格者

先月号のお気に入り
後ろ髪ひかれて帰る夫入院
村上てる
同感。母が緊急入院。面会の後の心境です。

Sin【しん・青森県外ヶ浜町】

割に合わない神様ばかりなんだよな
棚に上げた自分が10巻まで揃う
ママ いまね 諦観とおしゃべりしていたの
逆上がり 何度も自分を蹴るように
そうか 夜 お前もひとりぼっちだったんだ

先月号のお気に入り
白黒は無題の中で交尾する
田久保亜蘭
かつこい。

須藤しんのすけ【すとうしんのすけ・青森県弘前市】

新品の古語辞典から丁寧語
白線の外で火遊びして来ます
赤い糸嚙んで小指の固結び
歳時記に載せる「サザン」というカオス
酔ったふりした肉体が透き通る

先月号のお気に入り
さすらいの曲に合わせてひた歩く
まきこ
出川哲朗の充電させてもらえませんか? ってホンワカ
してていいですね(笑)

瀧尻善英【たきじりよしひで・青森県八戸市】

トリミングしたら子豚になっていた
手の内を見せればピュアな心意気
楷書から草書になって背が丸い
この道を曲がれば落ちてくる句材
赤い糸解けば放浪癖が出る

先月号のお気に入り
大きくなったらゴジラの父になってくれ
笹田隆志
「ゴジラの父」とは、怪獣王ゴジラのよう存在、それはハンド版『キング・オブ・モン
スターズが語っている。昨年の「ゴジラ」の「ゴ」も「シン」の「シ」以上に尊敬を感じる。

田久保亜蘭【たくぼあらん・秋田県五城目町】

すれすれの印象質に入れ直す
たたくろうも過去の薬をまた飲んで
わたしには解る異星が良く煮える
本日は悪魔払いにしておくれ
鯨には鯨の都合ある震度

先月号の
お気に入り

田中 薫【たなかかおる・青森県弘前市】

ゼロ地点気付くのオソツわたしのココ
米寿の原石ってビー玉らしい
しがらみが糞虫になりましたとき
あと何回輪廻するんですか蟻くん
匙加減知らない男（ヒト）はツチノコです

先月号の
お気に入り

分け合ったことを忘れたことを忘れた 須藤しんのすけ
じゃあ覚えてるってこと？んー。

夏草ふぶぎ【なつくさふぶぎ・青森県青森市】

食卓の椅子の裏側にささくれ
特別な人だと言われ飯を炊く
三日月を使って人を切っていく
裸電球が居座っている四畳半
手遅れの夕日が放ついい香り

先月号の
お気に入り

ともだちがほしいいされどいまはいい 笹田隆志
なんだよそれって思ったけどハナマルです。

鳴海賢治【なるみけんじ・青森県つがる市】

客観性に欠けている梅もどき
みごとな腕前です 徘徊します
窓を閉めます 戦争の時間です
先輩も後輩もない終電車
いいそびれていました完敗でした

先月号の
お気に入り

夕焼けは夕食後にお飲みください Sin
夕焼けを飲むという発想がおもしろい。

旅男【たびお・青森県五所川原市】

鳩は平和かクク来る括る市長
長崎の鐘インインとエイエン
炎炎と御巢鷹の夏の焦げ
コゲがお好きかおままま
飯事 泊っても三日までにして

先月号の
お気に入り

柿の花柿の花納骨終る 守田啓子
柿の花言葉は自然美、優しさ、恩恵とか。季節感、穏やかさ、
自然の運命、淡々と花言葉どつりにきれいです。

辻井洋子【つじいようこ・青森県青森市】

熱中症十二単は怖すぎる
危険地帯スマホをいじる夜の部屋
高くなる鼻はしばらく押さえます
心棒が出ていつたがり帰らない
鳥になるご飯美味しく頂いて

先月号の
お気に入り

目覚ましがつつむきがちに鳴り響く 夏草ふぶぎ
家の目覚ましは遠慮なく鳴り響きます。

ひとり静【ひとりしずか・奈良県大和郡山市】

キャンプファイア魔法にかかる時間です
八月の重さで日々が過ぎてゆく
真夏日という名を背負う夾竹桃
てのひらを見ている通院の途中
幸福な王子という考え方

先月号の
お気に入り

美味しいって言うてくれたからつづく 熊谷冬鼓
そうそう褒めてもらえればなんだって出来るのです。

むさし【むさし・青森県蓬田村】

山に腰掛け空にもたれて囁る夢
舌の根にくらげの骨が刺さってる
アザラシになりたいやつを知らないか
猛暑日なのにクマも詐欺師もやって来た
カモミール、パクチー、ミント、樹木希林

奈良一艘の珠玉の一句【第一弾】

城後朱美選

三日月とまだ密会をくりかえす
人として正しく転倒した…のかだ
ニンゲンになるには嘘をつき過ぎた

きざらぎ彼句吾選

人として正しく転倒した…のかだ
泣きなさい人恋いなさい枯れなさい
つきつめてゆけば水の音ポトリ

くんじろう選

マーキングするのであれば白桃に
気に入らぬ窓だ爪切る音がする
寝たぎりの窓からタナトスが覗く

宮井いずみ選

白桃の果肉の産毛 卑怯だよ
アーアー当機これより羊雲
裂き鳥賊の何にも恐いものは無い

峯島 妙選

熱帯夜チチコロシテキタトコロ
せいしゅんの南南西に石野真子
カツ井と蕎麦のカップルで無敵

柳 陽子選

パンツ履く行為のカ・カ・カ・柿の種
老人とフランスパンは固いのだ
葉桜のざわつく指は捨てなさい

八上桐子選

お祭りののののののののの水の音
やわらかく尖る春の日の卵
また一羽逝ったよ海を眠らせて

守田啓子選

いつの日かこうなる一人っきりの朝ぼらけ
そんな日のバリつと夕日裂ける音
ブタの鼻ポケモンの鼻ランプの鼻

宮井元伸選

銃口は六時半へと向けてある
白桃の果肉の産毛 卑怯だよ
ひとときは鯖缶その後モアイ像

四ツ屋いずみ選

後期高齢的ロケンロールな息を吐く
ニンゲンを解く銀河を敷きつめて
いつの日かこうなる一人っきりの朝ぼらけ

夏草ふぶき選

潮騒をいくつ奏でてきたんだろ
つきつめてゆけば水の音ポトリ
なが〜い廊下の話だが 聞くか？

木口雅裕選

わたくしのベサメムーチョな紙おむつ
JAZZ的なそこは一条戻り橋
じいさんにじいさんがいて僕もジイサン

母さんになる

9月7日(土) 午後1時～ アウガ5階 小会議室

▼出席者 (16名)

笹田隆志・守田啓子・田中薫・高木まあこ・葉閑女・藤田智恵子・
小野五郎・夏草ふぶき・Sin・野沢省悟・渡邊こあき・一帆・
まみどり・熊谷冬鼓・むさし・須藤しんのすけ

▼投句者 (19名)

嵯峨山登・戎躰兵・岩根彰子・米山明日歌・柳本恵子・宮井い
ずみ・芝岡かんえもん・峯島妙・斎藤泰子・奥田悦生・郷田み
や・旅男・鳴海賢治・村上あつこ・城後朱美・香田龍馬・安藤
なみ・坂本清乃・まきこ

おかじょうき川柳社

9月例会

席題『不思議』

青森県青森市 笹田隆志選

【佳作】

コンニャクか豆腐かわからない毎日 まみどり
 人質にとられた命取り戻す 須藤しんのすけ
 全てがナゾそして生かされ又不思議 田中 薫
 無臭ニンニクつて魔除けになるのかな 小野五郎
 うろこ雲ですか百条委員会ですか 守田啓子
 気の抜けた風船ですがよく弾む まみどり
 曲がり角曲がるたび会う人がいる 渡邊こあき
 どうしても逆走をする蟻がいる 野沢省悟
 何もかも記憶にないで押し通す 葉 閑女
 モツ鍋の豆腐で切った向こう脛 小野五郎

落ち着きますあなたの枯れていくにおい 夏草ふぶき
 憎まれつ子つて死なないんじゃなかったの 須藤しんのすけ
 眠れないカバを見ている雪だるま むさし
 ちんちんをまたにはさんでねむるくせ 須藤しんのすけ
 なくなるとなぜか入ってくるお金 渡邊こあき
 七年です何故またメールねじり花 高木まあこ
 やっぱり海はあなたの思念体だったんだ S i n

【秀逸】

詐欺でした不思議なポケットなんかない 葉 閑女
 底辺がナゾ高さが答えとしておく 田中 薫
 触れずとも揺れる紫陽花 小糠雨 高木まあこ

【特選】

ペンギンが生まれたペンギンの卵 野沢省悟
 ①ペンギンの卵からペンギンが生まれる
 なんて知らなかった。

席題『不思議』

青森県三沢市 守田啓子選

【佳作】

マスクしてしまふと明日が見えませんが むさし
 赤とんぼ目と目が語っている不思議 一 帆
 非常口マークの人は楽しそう S i n
 咳ひとつ一体感は何でしょう 一 帆
 モツ鍋の豆腐で切った向こう脛 小野五郎
 こめかみに疑問符マイナ保険証 熊谷冬鼓
 何もかも記憶にないで押し通す 葉 閑女
 総裁選出ると裏金なくすと言う 野沢省悟
 曲がり角曲がるたび会う人がいる 渡邊こあき

まつとうに生きてきました不思議だね 笹田隆志
 やっぱり海はあなたの思念体だったんだ S i n
 無臭ニンニクつて魔除けになるのかな 小野五郎
 不条理と不思議の間に恋はある 藤田智恵子
 詐欺でした不思議なポケットなんかない 葉 閑女
 涙雨かあさんの腕伸びてくる 高木まあこ

【秀逸】

気の抜けた風船ですがよく弾む まみどり
 おはじきが大人しい夜の過し方 夏草ふぶき
 パワハラ体質のナマコの応え方 熊谷冬鼓

【特選】

落ち着きますあなたの枯れていくにおい 夏草ふぶき
 ①不思議です。同感です。

宿題 『サイズ』

青森県黒石市 高木まあこ選

【佳作】

だからさあサイズを聞いて何するの
 手で触れて撫でて確認するサイズ
 柩にもセミダブルつてありますか
 わたくしのガリバーは繋がれたまま
 着れるけど大は小を兼ねない下着
 夏限定フリーサイズの恋カモン
 コロリンとやって来たのは小さな幸
 句も福もフリーサイズのストレッチ
 独りでは大きすぎます夜の箱
 窮屈な箱で本日黄昏れる
 夕焼けを大きく見せる雲の海
 恋情を計るメジャーを借りてくる
 体重は夫婦茶碗と真逆です
 神様がくれたサイズを生きている

まみどり
 一 帆
 小野五郎
 芝岡かんえもん
 奥田悦生
 峯島 妙
 斎藤泰子
 宮井いずみ
 米山明日歌
 一 帆
 戎 踊兵
 野沢省悟
 藤田智恵子
 斎藤泰子

故郷は縮んで伸びて又縮む
 手のひらサイズで夫婦始めます
 拡大した「ごめんなさい」を渡される
 君は僕には太すぎる Which
 試着してみる 不幸のLサイズ
 抜け殻の裂け目窮屈だったんだ

【五客】
 許容範囲XLのロクデナシ
 雨あがる別れに半端な虹が出る
 赤とんぼ三匹ほどの恋でした
 広がらぬように抱いてやる隙間
 縮んで縮んでソーダ水の泡の中

【人位】
 頭蓋骨に合わせられない前頭葉

【地位】
 500号のキャンバス蒼で埋めていく

【天位】
 富士山を祭壇にして生前葬

⌚ 特大サイズに圧倒されました。

岩根彰子
 城後朱美
 夏草ふぶき
 旅 男
 S i n
 熊谷冬鼓
 守田啓子
 戎 踊兵
 野沢省悟
 米山明日歌
 田中 薫
 笹田隆志
 宮井いずみ
 笹田隆志

宿題 『痛』

青森県青森市 熊谷冬鼓選

【佳作】

齧られて神経抜かれた脛ばかり
 子の視線正直痛い時もある
 ハートブレイク本日はひきこもりです
 拾万円札がわたしの顔になる
 下腹部の縫い目あたりの蟻地獄
 軽傷ですよ今夜はワイン開けましょう
 話したい事が溢れてなおひとり
 痛点はとくに捨てたハダカデバネズミ
 泣きたくて一〇一ページをまた開く
 楕円形で生きればきつと痛くない
 切りつけた私の方が痛いのに
 覗かれて痛みはさらに強くなる
 さびしいよるはひとりせいぎのほんをよむ
 たつぷりと老いた匂いのする絵札

藤田智恵子
 斎藤泰子
 柳本恵子
 嵯峨山登
 む さ し
 ま き こ
 夏草ふぶき
 小野五郎
 藤田智恵子
 守田啓子
 む さ し
 米山明日歌
 須藤しんのすけ
 須藤しんのすけ

日焼けした背なへ粗塩盛り上げる
 ガラスペンなんて痛気持ちいい会話
 痛いから痛いと言ったのにオマケ
 作業着に父が遺した痛み止め
 陣痛は切れ切れホチキス持つてきて
 たとえれば深艘心理の最終回

【五客】
 歯科医院勝負パンツを穿いてゆく
 凡庸を生きても頭痛ぐらいする
 男ひとり食べたら痛み消えました
 置いてきた尻尾もきつと痛いだろ
 痛い痛いウフフと日記に書いておく

【人位】
 引き際の手前の夕日のササクレ

【地位】
 国構えされて突き指してしまふ

【天位】
 痛いとき痛いと言えた海の青

⌚ 痛みを聞いてくれる人がいてこそその海の青。

香田龍馬
 宮井いずみ
 郷田みや
 戎 踊兵
 岩根彰子
 まみどり
 野沢省悟
 斎藤泰子
 城後朱美
 米山明日歌
 ま き こ
 守田啓子
 宮井いずみ
 岩根彰子

宿題『自由詠』

青森県逢田村 むさし選

【佳作】

鬼婆の貌でにつつき虫退治	葉 閑女
「ありがとう」がすり減りだした生き字引	夏草ふぶき
写楽よいまの日本は絵になるか	笹田隆志
草間彌生の必死 水玉の必死	熊谷冬鼓
ふんぞりかえっているのは俺のどこ	芝岡かんえもん
行方不明の笑いを探りに行く帰省	夏草ふぶき
夕焼けに撫でてもらってまた生きる	斎藤泰子
糊代を広くとつてのお友だち	渡邊こあき
白秋を青春にする勉強会	葉 閑女
寂しさの千本ノックくらつてる	芝岡かんえもん
青空を折り紙にして鶴を折る	奥田悦生
紙の鶴元通りには戻れない	斎藤泰子
みじん切りもう体力がありません	まみどり
地球つていつたい誰の落とし物	野沢省悟

踏まれてることが私の顔なのに

戒名を煮沸消毒するこの世

百歳までは白紙に絵の具足して行く

魔女だった 凌霄花になる前は

陳列棚から叫び声海でした

総裁は直ぐ産休に入ります

【五客】

あと少し電池切れまますきようなら

塩味が聞いております手をつなごう

あと一年待つて蛹になるつもり

巻き戻しすればするほど百日紅

炎天下グレーゾーンに落ちている

【人位】

瞬間移動したら老人になった

【地位】

線状降水帯叱る相手を間違える

【天位】

母さんが母さんになる死化粧

「そうなんだよな、残念だけど…」

米山明日歌

坂本清乃

奥田悦生

戎 踊兵

田中 薫

安藤なみ

須藤しのすけ

鳴海賢治

戎 踊兵

郷田みや

渡邊こあき

野沢省悟

熊谷冬鼓

一 帆

参加者募集

川柳吟行会「ぼ」

課題『本』

川柳吟行会「ぼ」の活動に意義を感じている。作句して選考し、点数順に発表するのは何処でもしているが、参加者全員で選句と選評をし合い、その結果を全て柳誌に載せるといふ点が良いのである。十人十色の作句姿勢と感性で句は鑑賞されていて、自分にはない鑑賞眼にハツとさせられる。月日が経つてたまたま読み返してみると、急に作者の思いが強く伝わってきて佳句だと思直すことがある。これも紙面の効能だと思っている。

(吉見恵子)

【12点】特×4・佳×4

のどが渴いてきたので本を読むわ 笹田かなえ

【朱美】文字をほしがっている。アウトプットばかりでは、頭がすつからかん。インプットしなければ。【妙】本好

【9点】特×1・佳×7

えんえんと雨を降らせているト書き 峯島 妙

【隆志】こんな脚本を渡された役者は台詞を読む気力を失ってしまいます。【善江】ト書きの雨に惹かれました。発想がおもしろいです。【啓子】このはじめじめした天気。ト書きのせいだったとは・・・。【与生】笹井宏之の歌集タイトル「えんえんとくちから」のリズムを思いださせたのは、オリジナルという観点で言えばマイナスに感

じた。【州花】ト書きはどこまで理解できるのだろう。【い
ずみ】「ト書きに雨を降らせる」という表現がうまい。【か
なえ】こういう台本で演じる役者さん、何だか可哀そう。
【ふぶき】どんな雨が降り続けているのだろうか、語りた
いことがいっぱいト書きなのでしょうね。

【6点】特×3

ピーラーで剥く茄子の皮点と線 笹田かなえ

【彰子】主婦ならば手元にあるピーラーで茄子をも剥く
は日常、と貸本屋の取り合わせに斬新さを感じました。
【文音】ピーラーで剥く点と線で松本清張の小説が蘇る。
茄子の皮のサスペンスがおもしろい。【ふぶき】茄子の
皮が黒光りして怪しげに思え、松本清張の点と線と妙に
マッチして想像をかきたてられる句でした。

【6点】特×2・佳×2

本棚の向田邦子から涼風 岩根彰子

【吉見恵子】無駄がなく自分にとつての良書を的確に表
現している。【与生】向田邦子是不倫もしていたし順風
満帆な人生を送った人ではなかったけれど「涼風」はと
ても彼女に合っていると思う。一家に一冊、本棚を探せ

【州花】料理のレシピ本の間は何故か昔の詩集が混ざつ
ていたりする。読み始めてしまい…。【踊兵】美しい絵
だなあ、此処には野暮な男は入らせない。【妙】情景は
秋のフェルメール。猛暑の厨房では読めません。【いずみ】
家庭のキッチンではなく、仕事の調理場だろうか。詩集
を持ち込んで読んでいるってどんな人だろう。

【4点】特×1・佳×2

白紙の台本で主役だと言われ 月波与生

【規子】人は皆生まれた瞬間同じものを渡される。問題
はそこにどのような生き様を書くかだが、私の場合ろく
く内容がない。恥ばかりである。【吉見恵子】発想は面
白いが、句をもう少し整理した方が良いのでは。【隆志】
いくら主役とはいえ、セリフのない台本なんて。

【3点】特×1・佳×1

風鈴の無風をゆらす文庫本 吉見恵子

【こあき】自分の気持ち動いたことを無風の風鈴がゆ
れるなんていいな。【踊兵】かすかに響く風鈴の音が聞
こえてきそう。

ばどこかにあるだろう「父の詫び状」。【冬鼓】色あせな
い向田邦子の作品に涼風の表現がびつたり。【規子】私
の句も読んでいただく方々にとつてこうありがたい。

電柱を数え直してばかりいる 戎 踊兵

【達雄】水府先生の電柱の句を思い出した。日本人の電
柱を見る眼も変わったなあ。さまよえる…。【まあこ】
日常の不確実性を見事に捉えている。一本二本と数えず
にはいられないのです。【柳本恵子】貴方の努力を認め
ます。【五郎】題「本」を暗示することに成功している。

【5点】特×1・佳×3

虫集く空き家になった本籍地 熊谷冬鼓

【さち】何年も帰っていない実家。親も兄弟もいないけ
ど親族は住んでいる。私の本籍地はもう空洞です。【妙】
皆さん本籍地はそのままなんでしょうか？不便ですよ
ね。【与生】「虫集く」、川柳として読めば臭く感じる。「空
き家になった本籍地」は良い。【州花】誰もいなくなっ
た家には大嫌いな竈馬など跋扈しているのだろうか。

厨房の狭い窓辺で読む詩集 夏草ふぶき

「風の盆」借りて返して恋だつた 吉田州花

【柳本恵子】おわら風の盆の胡弓が聞こえてきそうな詩
情を感じました。【規子】私も一応女ですから恋には憧
れますがなかなか現実はそのままで熱くなりませんね。

本籍地沈む夕日にむせている 守田啓子

【踊兵】夕日って不思議。美しくないからつて気になら
ないのに、美しいとどこまでも心が震えてくる。【彰子】
沈む、むせる、マイナスな比喩が雄大。

チエーホフをめくるとカモメが騒ぎ出す 夏草ふぶき

【善江】ヒロイン・ニーナの「私はおもめ」を連想させ
てワクワク…。【吉見恵子】カモメのざわざわした
感じが物語を感じさせて良いと思った。ただ、「カモメが」
の「が」がいらないのでは。

古書市の設営クマゼミの重し 岩根彰子

【いずみ】クマゼミの声つて、あの軽い体でよくこんな
に大きな声が出るなと感心する。それも、大合唱。古書
市のテントがその重みでたわんでいる。【さち】野外の
古書市、クマゼミの声に圧倒されました。

老いてゆく陽炎の一本の線

守田啓子

【五郎】人生の悲哀を映像化して見せた。【まあこ】ゆらゆら揺れる陽炎の中にも一本の線を持ちたい。同感です。

【2点】特×1

口あけて海を待つてる本能寺

小野五郎

【かなえ】発想の飛ばし方のスケールが大きすぎて、ガツンと参りました。

【2点】佳×2

貸し出し不可の凶鑑に指を挟まれる

小野善江

【こあき】楽しい句で好きです。【ふぶき】ちよつとぐらいいいじやないと思つてたらピシヤリとやられたんですね、面白いです。

自叙伝の突っ込み所しやぼん玉

熊谷冬鼓

【かなえ】好きな人の自叙伝、嘘ぼつかりだと聞いてから…【さち】自叙伝なんてそんな物でしょう。はじめてはただの水になる。

新聞も本も読まないアワダチソウ

滋野さち

【朱美】昭和の子どもは、遊ぶことに夢中でした。【冬鼓】群生するアワダチソウ。その中に今の私もいます。

【1点】佳×1

京都駅あたりで本を読みおえる

城後朱美

ananは悪い子nonoは 忘れた

峯島 妙

銀漢や願いは願ひ貸本屋

福田文音

遠雷を楽しんで読む失樂園

笹田隆志

八月のにげたきんぎよは和菓子屋へ

宮井いずみ

未練など消えてしまえとゲリラ雨

柳本恵子

はじめての本はサンタのピーターパン

吉田州花

カフカを読む自分の影が虫になる

笹田隆志

本物の熊をぬいぐるみの熊に

小野善江

十和田たてがみ川柳会八月句会

○日時 8月17日(土)

○会場 十和田労働福祉会館

○参加者 木村奈生美・久保あざみ・佐藤まさあき・

白山修治・瀧尻善英・福田芳記・村上昌子・高

田幸柳

○投句者 磯島雅男・城後朱美

佐藤まさあき 選

■席題 『やつと』

【平抜き】

足し算がやつとできたと貯金箱

木村奈生美

頑張つてやつと手にした金メダル

木村奈生美

トリセツの厚味へ全て読み切つた

瀧尻 善英

息子たちやつと親父になりました

久保あざみ

夜が明けてやつと出てきた妥協案

瀧尻 善英

馬の耳やつと届いた民の声

高田 幸柳

修羅越えてやつとアナタに会えました

瀧尻 善英

やつとこさ米寿達成赤飯だ

福田 芳記

【秀逸】

新聞も本も読まないアワダチソウ

滋野さち

【朱美】昭和の子どもは、遊ぶことに夢中でした。【冬鼓】群生するアワダチソウ。その中に今の私もいます。

【1点】佳×1

京都駅あたりで本を読みおえる

城後朱美

ananは悪い子nonoは 忘れた

峯島 妙

銀漢や願いは願ひ貸本屋

福田文音

遠雷を楽しんで読む失樂園

笹田隆志

八月のにげたきんぎよは和菓子屋へ

宮井いずみ

未練など消えてしまえとゲリラ雨

柳本恵子

はじめての本はサンタのピーターパン

吉田州花

カフカを読む自分の影が虫になる

笹田隆志

本物の熊をぬいぐるみの熊に

小野善江

子が巣立ちやつと枕が高くなる

高田 幸柳

盆が明けやつと安眠できる夜

高田 幸柳

八年目やつと突つた実生柿

福田 芳記

■席題 『やつと』

瀧尻 善英 選

【平抜き】

日々やつと なおも喜び 創り出し

白山 修治

頑張つてやつと手にした金メダル

木村奈生美

メ切に やつと合わせの くせ抜けず

白山 修治

終電にやつと間に合う千鳥足

佐藤まさあき

ようやつとローン完済ビール酌む

佐藤まさあき

盆が明けやつと安眠できる夜

高田 幸柳

さわやかな球児の汗にある努力

村上 昌子

猛暑日はダラリと伸びてタマと居る

村上 昌子

馬の耳やつと届いた民の声

高田 幸柳

【秀逸】

趣味の会やつと集まる輪の笑顔

木村奈生美

鬼あざみやつとおばばになりました

久保あざみ

【特選】

子が巣立ちやつと枕が高くなる

高田 幸柳

■宿題 『止める』

高田 幸柳 選

【平抜き】

ひらめきは 止めよの合図 天の声 白山 修治
 止めたいな取り越し苦労する心 福田 芳記
 禁煙の壁紙三日で剥がしてる 佐藤まさあき
 全世界平和通りの止める夜 磯島 雅男
 年賀状止める頃合い計ってる 佐藤まさあき
 原発は止めよ地底の唸り声 村上 昌子
 急ぐのは止めよと赤の信号機 木村奈生美
 家事止めて母に絵本を読んでいる 城後 朱美
 世渡りも妥協も止めて居る本音 木村奈生美
 酒タバコやめた左遷のタイミング 瀧尻 善英
 習い事止めてストレス消えました 城後 朱美

【秀逸】

リモコンでピッと止めたい妻の愚痴 瀧尻 善英
 プライドを止めると治る肩の凝り 木村奈生美

【特選】

んつまさか こんな場面で降ろす幕 瀧尻 善英

■宿題 『やさしい』

木村奈生美 選

【平抜き】

春風の 笑みを浮かべて あいまみれ 白山 修治
 優しさに慣れて筋肉そぎ落とす 磯島 雅男
 百歳を越えて弥陀よりやさしい目 瀧尻 善英
 仏壇の娘はいつも笑ってる 久保あざみ
 いつになくやさしい もしか下心 高田 幸柳
 やさしさに触れて氷が解けはじめ 瀧尻 善英
 息子事故母さんごめん元気だよ 久保あざみ
 やさしさをコトコト煮込む母の味 高田 幸柳
 優しさを求め飛び込む夜の虫 村上 昌子
 習いごとやさしいのから自信つけ 福田 芳記
 やさしさが 時には誤解 仇となる 白山 修治

【秀逸】

小包に母のやさしさ詰まってる 佐藤まさあき
 母ちゃんのような優しい人に恋 磯島 雅男

【特選】

もう少しやさしい妻を所望する 城後 朱美

■宿題 『やぶ蛇』

互選

- ① 国民を向かずやぶ蛇 岸田さん 福田 芳記
- ① つついたら藪から偉い人が出た 村上 昌子
- ① やぶ蛇を払う強気の草刈機 木村奈生美
- ③ 説教に反論したら長くなり 高田 幸柳
- ④ 「任せとけ」そのひとことで払う破目 佐藤まさあき
- ⑤ 言い訳を重ねて深くなる墓穴 瀧尻 善英

◆十和田たてがみ川柳会10月句会案内◆

【時】10月26日(土) 午前10時から 【所】十和田労働福祉会館 【宿題】(各題三句詠 『予感』佐藤まさあき選/『嫁』福田芳記選 【互選】(一句詠)『喜ぶ』当日出席者のみ(句せんの裏に柳号記入) 【席題】『当日発表』(三句詠・共選) 選者は、瀧尻善英(ほか出席者から一名) 【投句先】〒034-0212 十和田市米田字桜平72 高田幸柳宛

The image shows a screenshot of a Japanese blog. At the top, there's a header with a drawing of a landscape and a QR code. Below the header, there's a search bar and a list of blog posts. One post is highlighted with a red background. To the right of the text, there's a QR code. At the bottom of the screenshot, there's a photo of a man wearing a hat and glasses, holding a small card or envelope.

おかじょうき川柳社ウェブサイトからの投句について

現在、おかじょうき川柳社のウェブサイトは、サーバー移転のため、一部サービスが使用できない状況となっております。

みなさんがよく使用する「投句ページ」もすべて Google フォームへ移行して対応しています。

ただ、投句された方から、「画像認証がうまくいなくて投句できない」という声が多く寄せられています。これは、ロボットによる大量投稿を防ぐためのセキュリティとして行われています。

画像認証が出てくる人と出ない人がいますので、下記の方法をいくつか試してください。

①「Google Chrome」でウェブサイトを開覧する。

Android のスマホだと標準で「Google Chrome」となっているのですが、iPhone は標準が「Safari」になっているため、画像認証が出てくるようです。**iPhone の方は、右の QR コードから「Google Chrome」をインストール**してみてください。



② Google アカウントを作成する

iPhone の「Safari」を使用している場合、**Google アカウントを作成してログイン**すれば、画像認証は出てこなくなります。Google アカウントを作成しておけば、いろいろなサービスがありますので、作ってみてはいかがでしょうか。



③画像認証を突破する

画像認証は右の例でいうと、9つのタイルから自動車が映り込んでいるものを**すべて選択**します。なかには、ギリギリに映り込んでいるものもありますので、注意が必要です。ただ、**間違えても全然大丈夫**なので、それらしいものを選択して「確認」を何度か押してみれば突破できるはずですよ。



わかりにくい問題だった場合、ここで問題を変えれます



□ 2024.10.13 第 59 回 五所川原川柳大会

【とき】令和6年10月13日(日) 受付:9時30分/席題発表:10時30分/投句締切:11時30分【ところ】五所川原市中央公民館1階大ホール【会費】4千円(昼食・懇親会・発表誌)【宿題】(各題・共選・二句詠)『隠す』北山まみどり・むさし選/『空想』菊池京・千島鉄男選/『企む』きさらぎ彼句吾・岩崎雪洲選【席題】(二題・共選・二句詠)『 』三浦蒼鬼・野沢省悟選/『 』守田啓子・高瀬霜石選【特別課題】『【今】熊谷冬鼓・綿谷夕雨子・田沢恒坊・千葉かほる・福土慕情選【賞】宿・席題合点20位まで・特別課題3位まで【主催】川柳岩木吟社/五所川原市文化振興会議◇投句拝辞◇選者につきましては交渉中◇連絡先 電話 0173-34-3698 沢田百合子まで

□ 2024.10.17 第 58 回 大川誌上川柳大会

【課題と選者】「一步」太宰府・藏田康子 選/「チャレンジ」鹿児島・石神紅雀選/「晒す」中間・古谷龍太郎 選/「推す」吉野ヶ里・真島久美子 選/「ギリギリ」熊本・中川しのぶ 選/「不便」宮崎・間瀬田紋章 選/「武士」(時代吟)柳川・梅崎流青 選【投句締切】令和6年10月17日(木) 当日消印有効【投句用紙】各題2句計14句(受付表・同封用紙にて提出) 別紙に14句と氏名明記の上同封して下さい。【賞】特選賞 順位賞【投句料】千円(発表誌呈)【投句先】〒832-0005 柳川市西蒲池834の1 古賀順子(TEL.0944・73・1427)【主催】大川川柳会えんのき【後援】大川市教育委員会・大川文化協会

□ 2024.10.27 黒石川柳大会

【とき】令和6年10月27日(日) 受付11時30分～ 席題発表12時【ところ】スポカルイン黒石2階大会議室(電話0172-53-8111)【会費】2千円(発表誌・お茶) 昼食は各自でお願いします。【事前投句】「蛇」1句詠(欠席投句拝辞)10月7日(月) 消印有効 清記して全員選 【宿題】「甘い」野沢省悟・沢田百合子共選/「潮」千島鉄男・千葉かほる共選/次々」田沢恒坊・山野茶花子共選 【席題】「 」むさし・岩崎真理子共選 ※宿題・席題ともに2句詠 ※宿題、席題の投句締切 午後1時 ※開会は午後2時(懇親会はありません)【問い合わせと事前投句のあて先】黒石川柳社 三浦蒼鬼 〒036-0533 黒石市二双子字十川46-2 携帯電話 090-7933-6064

■会費拝受【8月受付分】

嵯峨山登(佐賀県) / 河野潤々(北海道) / 渡邊こあき(青森市)

■おかじょうき川柳社会員募集中!

会員ならびに当誌購読希望の方は、下記の口座までお振り込み下さい。

→郵便振替 No.02280-6-43112 口座名:おかじょうき川柳社

→会費:6,000円(1年分)

おかじょうき川柳社 お問い合わせ先

●投句以外のことについてはこちらへ●

熊谷冬鼓 toko@okajoki.com FAX.017-752-3759

(〒039-3502 青森市久栗坂字浜田 87-2)

◆終着駅 Sin

◆いま、川柳データベースにある奈良一艘さんの作品の中から、「奈良一艘の珠玉の一句」を募集している。まだ参加されていない方はぜひ投稿をしてほしい。私も川柳データベース内の約2,000句もある一艘さんの作品から3句選ぶという作業は、自分で思いついた割に結構大変な作業だった(笑)◆ただ選んでいてふと感じたことがある。それは「読者」として選ぶ作品と、「選者」として選ぶ作品は違うという感覚である。違わなければならないとも思う。よく、初めて選者をする人から「選はどうやってすればいいですか?」という質問に「素直にいいと思う句を選べばいい」というやりとりを目にするが、これは「読者」と「選者」をしっかりと区別出来ている前提の話である。「おい、おい、選者も一読者なんだから、読者として選んで何がダメなんだ?」という声が聞こえて来そうだが、その人の好きな川柳を発表することが「選」ではないと思うのだ。それを良しとすると、共感性の高い報告句のような作品を、

「これが好き。だから入選」としてしまふのは、その人が作家として成長しない原因にもなる。思考・発想の面白さや、言葉の選び方、リズムの取り方など、川柳としてのレベルが高いかどうかを判定するのが「選者」でなければならないと思う。「読者」としての目線、いわゆる嗜好だけで作品を消化してしまえば、どれだけたくさんの作品を読み込んだとて、何の実にもならないと思う◆では、どうすればいいか。これを言語化するにはとても難しい話になるが(汗)、まず基本的な判断材料として、その作品が「自分に書けるかどうか」「自分にその発想ができるかどうか」「自分にこの言葉がチョイスできるか」を考えてみるといいだろう。この篩に掛けるだけで、わかりやすい報告句なんかは、選外へ篩い落とされるはずである。初めのうちはこの篩の目が荒くても、自分が上達していくたびに、自動的に篩の目も細かくなり、数句しか通らないようになると、また「読者」としての景色も少し変わってくることだろう◆Sin

おかじょうき川柳社 作品募集案内

□ 2024.10.09 ㄨ 「川柳吟行会 ぼ」10月句会

【投句締切】10月9日(第2水曜日)【題・投句数】『林』2句【合評句会】10月16日(第3水曜日)青森駅前アウガ5階で14:00~【投句・問合せ】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛 *それぞれの地で一人吟行して作句し投句願います。参加者全員による選・選評をメールで交換。入選句・選評等は後日月刊おかし



じょうきに掲載。メール交換できる方であれば、おかしょうき会員以外でも参加可。年会費1,000円。【メールでの投句】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛

□ 2024.10.20 おかしょうき会員雑詠集「無人駅」5句(12月号分)

【締切】10月20日必着【提出】雑詠5句、お気に入り1句(最新号からお好きな作品1句とそれに対する簡単なコメントも記入)【掲載】12/10発行号【ウェブサイトからの投句】http://www.okajoki.com/【メールでの投句】moriko@okajoki.com



守田啓子宛

□ 2024.11.02 おかしょうき川柳社本社11月句会

【時】11月2日(土)午後1時~【所】アウガ5階小会議室【投句締切】11月1日(金)15時【宿題】(各題3句詠)『ショー』/『止』/『自由詠』【席題】1題3句詠・2人共選。選者は当日の参加者より選出【川柳ラボ】互選句『証人喚問』1句【ウェブサイトからの投句】http://www.okajoki.com/【メールでの投句】moriko@okajoki.com 守田啓子宛



□ 2024.11.13 ㄨ 「川柳吟行会 ぼ」11月句会

【投句締切】11月13日(第2水曜日)【題・投句数】『文』2句【合評句会】11月20日(第3水曜日)青森駅前アウガ5階で14:00~【投句・問合せ】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛 *それぞれの地で一人吟行して作句し投句願います。参加者全員による選・選評をメールで交換。入選句・選評等は後日月刊おかし



じょうきに掲載。メール交換できる方であれば、おかしょうき会員以外でも参加可。年会費1,000円。【メールでの投句】toko@okajoki.com 熊谷冬鼓宛

爆撃機を抱えて真昼野にひとり血披無言で回る洗濯機あらかたの運は使った寝違える百漏漏叶ぬことがありすぎ半日を洗う大きな音させて流水が帰る風に乗るに連れ去って使った見えないはず

見えない街角医療ミス現場で読んだ週刊誌誰ですか案山子に石を投げるのは行く先は決めた真ん中で歩くやむひくれないに風を待つ街を出る小さな鈴をぶらさげて大停電やっど心が狂った

見えない荷物の着払い裸電球ばつんと素顔昂される電話から秋のどし泣いてゆく着地せよ人間風と手を切つて水吞るリリマルレン履き書ける筆を北の書いける叫び声もまたさぬように控がある流水の胎内いつも

青い空マンモスと共存する青い素泥の手で生きているよと空に云う天空へ反抗の迷走していかせりある空かも知れぬ梅をすくきつて芳一の耳によく似た臍章だまばたきの時は永劫かも知れぬふい

が生まれそうでちよつと揺らしますだから黙つてフェリー埠頭に雪じつとしていれは夕陽になれませうか性愛や砧の音を引き摺つて芳一の耳によく似た臍章だまばたきの時は永劫かも知れぬふい

指で引火を喰い止める折り返いがつくまで空は伏せておく刃指定の中のメロンパン髪も洗った後の日曜日教室に並ぶ偽物の椅子針箱のまだ騒がしい金ボタン二等辺三角形の不整脈糖

母一匹作りの約束を破つて君をこの日から雑草の顔生きたててせぬんぬん灸据えして占術をしたところ六法全書偉いなことが書いてある突き落とした手の場合顔鏡はやめて花束持たさない

の鬼を包む漆黒になるまで撫でた涙盡くなくなっていく失ったもの色戦争の色に染め上げられて飢え生きた煙にやっど色がつく濃くなっていく失ったもの色他動詞のように葬列やって来る無

誰かが食って来ている住みかたに所々に蜘蛛の巣を張るよ訳あって禁止画像の中にいれる役もめていける昔の花白うはらにかなわぬ同じ量の水も世も雄である勝たまくたはなかつた

に選るまでの命と酔いどれる君の寝ぐせもベッドのシワも気になって封筒の中で桜は満開に水差しくと胃酸が置いてある仏間通動電車で金太郎船になってゆく矢矚の下たつた一つの前頭葉誤りを

買った方がいい株のこと歯の抜けた隙からぬ飛行船と二足飛行のキャビナルなる帰らぬもの閉めるドアの音村の歴史にアザガカンソウ土一探森から手紙しつと濡れて着く指先トコ買

西アフリカの蝶である綿玉吹けた隙からぬ飛行船と二足飛行のキャビナルなる帰らぬもの閉めるドアの音村の歴史にアザガカンソウ土一探森から手紙しつと濡れて着く指先トコ買

に気付くこ焼香満月があるおふバツタの老老介護豆の花産道は柳けがの道文通しよう杉の花粉が降る間樹海へと続く現金振込機から落へ書いている手紙登の月夜

うだ松抜きを探す途中の死の話題って吐いて吐いて「今度こそ」夜店の射撃で空の影あけて鳴く鳥になるなんて大きなことを言う鳥はもう帰つて耳の中のジャズ鳥を生んだことは

が更地になったすぎやう焼けた黄昏の鳥で混み合う神経科お魚を唾えて空を曲る鳥のたゆまぬ空を向いて鳴く鳥になるなんて大きなことを言う鳥はもう帰つて耳の中のジャズ鳥を生んだことは

内緒で幻で家族みな夕焼けの色を筆記体精美という安らかなロスタイム空輝をのせるため掌あけて鳴く鳥になるなんて大きなことを言う鳥はもう帰つて耳の中のジャズ鳥を生んだことは

の帽子飛んでくる「これは鳥ですか?」「いいえ戦争です」端っこに墓地真ん中に無人駅鏡の軒の先に土ほこりしみとポルノ映画で聴くシヨパン赤とんぼ殺してほい日の家路輪ゴムは

おかしき川柳社 http://okajoki.com/

面の細雪背開きが好きと冬のソナタに揺れている宇宙から架空請求書が二通なわとびで切れる風断風が吹くつかい棒のないのこすりかけたの瞳タリの中に音階踏み外すあなだの舌がセントラ

顔だ表札を黙って試いて行つた風いななきを産して父は逝きました息を吐くたびに偽名を以てして死体だらけのノート書いている寒冷前線捜しあぐねたもはばかり落ち椿まだ熱はある熱はある

味噌汁の味噌のどろりと老いてゆくキューレイ剥く舌がラ行になってゆく沢山のピロオド道もゆるる生きている何だろ次の方どぞ絶頂の少し手前の貸金庫取録早く早くと峻す未使用の部分

略図描く駅の下には母の墓割れたのはコップじやめに火葬場へ右へ右へと折れてたてた冬花の影は透明にふみ僕こけし根雪こけしの瞳タリの中に音階踏み外すあなだの舌がセントラ

雨漏らされた蟹はそれから横歩き縦に歩いた蟹一匹が俺である絵に描くど何だか遠いものなる鏡口の位置が蛇口のようにあるどうして点のない蠅牛軋んだら声かけられる街が好きき定年後妻は

大きなマシマロにあのひとのさみしい場所にと住む何もない掌に載せてみる秋の天子育ての方程式を愛で解くろくじゅう三文判の意思表示結納の見本に哭いた跡がある適切なお返事が来

冬が来る補聴器を外すと父は神にかなる報復の種を狙つて日丸の真ん中辺にある水槽の排水溝の絶叫音に新鮮なまぎゅう詰める欠茶碗目刺の主張訊きながらあやあやと白状なかさない



2024年10月10日発行 (年12回発行) 第29巻10号通巻367号 ●発行人/むさし●編集/Sin●発行/おかしき川柳社 ●表紙題字/金子榮風 青森県東津軽郡蓬田村阿弥陀川字汐千43-1 ●E-Mail:info@okajoki.com